



広島大学

文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
令和5年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）



島根大学

**広島大学・島根大学共同事業**

**「地方大学における理工系の女性研究者が  
働きやすく働きがいのある研究環境づくりのための調査分析」**

**米国、スウェーデン、韓国、ドイツでの収集データから  
女性研究者の育成に資する評価について考察する**

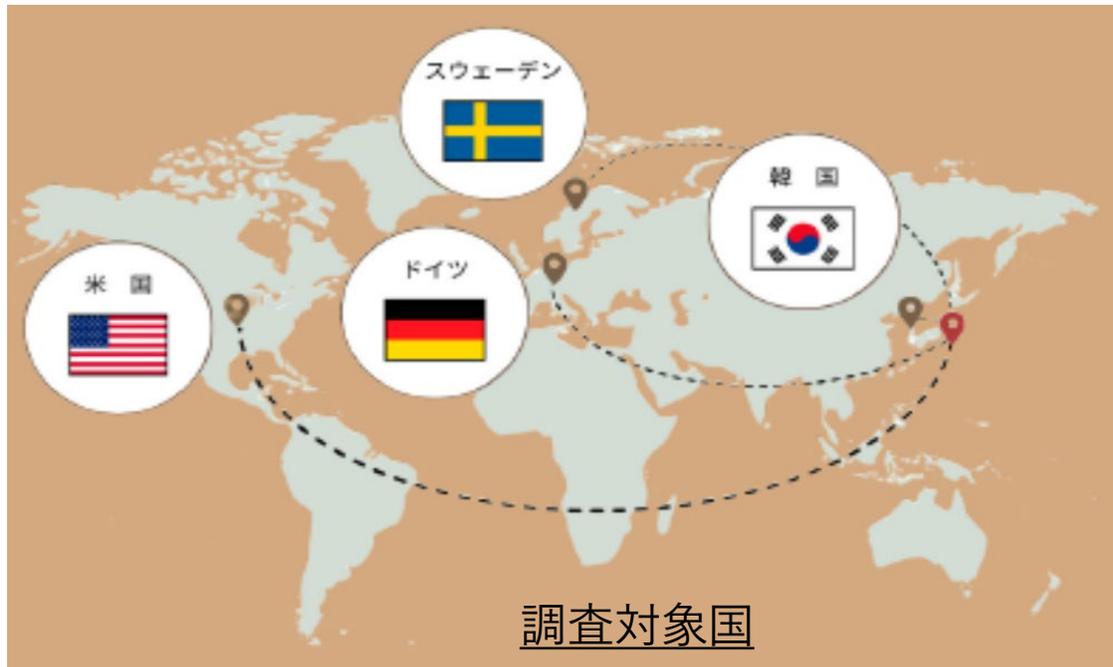
---

**広島大学副学長（ダイバーシティ担当） 石田 洋子**

# 1. 調査分析の概要

**目的:** 本事業では、海外の大学及び研究機関における優れた取組について、多様性(Diversity)、公正さ(Equity)、包摂性(Inclusion)を重視した研究環境づくりの現状と課題を調査分析し、日本での実装可能性を検討の上、「地方大学における理工系女性研究者が働きやすく働きがいのある研究環境づくりのための政策提言書(仮)」を策定する。

その政策提言書をもって構造改革につなげ、日本におけるダイバーシティ研究環境の実現を目指す。



## 調査分析の手順・スケジュール (令和5年度～6年度)

ステップ1: 令和5年9月～12月  
日本及び対象国の政策及び取組に関する  
**事前調査分析及び両大学の取組レビュー**

ステップ2: 令和6年1月～3月  
**第1回海外調査**  
(米国、スウェーデン)

ステップ3: 令和6年3月～5月  
海外調査**収集データ分析と**  
**情報共有フォーラム開催**

ステップ4: 令和6年4月～10月  
**第2回海外調査**  
(ドイツ、韓国、米国)

ステップ5: 令和6年8月～令和7年3月  
**調査結果取り纏め、提言書作成、**  
**情報共有フォーラムと総括シンポジウム開催**

# 2. 調査項目と提言書 (案)

日本国内における事前調査、米国、スウェーデン、ドイツ、韓国における優れた取組に関する情報収集と分析

情報収集の視点と横断的イシュー	重点調査項目1) 公募方法や雇用条件に どのような工夫がなされているのか	重点調査項目2) 女性研究者の採用や昇進の際にど のように公正さを重視して評価が行 われているか	重点調査項目3) 女性研究者にどのようなメンタリ ングやネットワークづくりの支援が行わ れているか
海外の優れた取組 に対する情報収集の 視点	家族との同居の希望やライフイ ベントへの対応のために、デュ アルキャリア支援、柔軟な雇用 時間、パートナー帯同雇用など の取組はどう実施され、効果が 上がっているか	ライフイベントによって生じる 研究活動実績（論文本数等）へ のマイナスの影響を減じるため、 どのような支援が行われ、人事 評価ではどのように考慮されて いるか	男性研究者が多数を占める中で、 女性研究者のキャリア形成や リーダーシップ育成のために、 誰がどのようなタイミングでど のような支援を行っているか
横断的イシューa) 地域との連携	デュアルキャリア支援や柔軟な 雇用時間を採用する際に、地域 の自治体やメディアはどう協力 しているか、大学や研究機関、 民間企業の連携による人材プ ールはあるか	ライフイベントによって生じる 研究活動へのマイナスの影響を 減じるために自治体の支援があ るか、公正な評価を行うこと に対して、大学や研究機関間で連 携しているか	女性研究者に対するメンタリ ングやネットワークづくりによる 支援の効果的実施のため、自治 体や大学、研究機関間で連携し ているか、メディアはどう協力 しているか
横断的イシューb) 無意識の偏見への 対応	デュアルキャリア支援や柔軟な 雇用時間を採用する際に無意識 の偏見は、誰から、どのような 形で生じたか、また、それに対 して誰がどのように対応し、成 果はあったか	女性研究者の採用や昇進に当 たって公正な評価を行う際に、 無意識の偏見は、誰から、ど のような形で生じたか、またそれ に対して誰がどのように対応し、 成果はあったか	女性研究者を孤立化から防ぐた めの支援を行う際に、無意識の 偏見は、誰から、どのような形 で生じたか、またそれに対して 誰がどのように対応し、成果は あったか
横断的イシューc) DXの活用方法	女性研究者の公募方法や雇用条 件に対する工夫をする中で、例 えば、デュアルキャリア支援、 柔軟な雇用制度、人材プールを 実施する際にICTをどう活用し たか	女性研究者の採用や昇進に当 たって公正な評価を行う際に、 どのタイミングで、どのような ツールでICTを活用したか、女 性研究者には何かインプットが 求められるか	女性研究者を孤立化から防ぐた めの支援を行う際に、誰がどの タイミングで、どのようなツ ールでICTを活用したか、女性研 究者側の自律性を高める方策は とられたか

日本での実装方法と  
実装可能性、有効性を  
以下の視点から分析

- i) 課題解決の優先度
- ii) リスク
- iii) 目標達成に要する期間
- iv) コスト
- v) 対象グループの妥当性
- vi) 公正性
- vii) 前提条件の実現性 等

「地方大学における理工系女性研究者  
が働きやすく働きがいのある  
研究環境づくりのための政策提言書」  
(案)

第1章 本申請事業の背景、目的、方法  
第2章 地方大学における理工系女性研究者が働きやすく働きがいのある研究環境づくりの意義  
第3章 米国、スウェーデン、ドイツ、韓国における取組による成果と課題  
第4章 提言

- 提言1 女性研究者がアクセスしやすく柔軟な公募方法と雇用条件
- 提言2 公正さを重視した評価制度のあり方
- 提言3 女性研究者に対するメンタリング及びネットワークづくり支援
- 提言4 提言1～3実装のための地域との連携のあり方
- 提言5 提言1～3実装のための無意識の偏見への対応方法
- 提言6 提言1～3実装のためのDX活用方法

# 3. 訪問国と訪問大学（令和5年度）

## ステップ1: 事前調査分析

### 1) 両大学における取組レビュー

- これまでの取組をリストアップし、成果、課題等をワークショップを開いてレビューした

### 2) 対象国に関する事前情報収集

- 大学制度、文化・社会背景、女性研究者支援関連施策の変遷と概要、統計データ等
- 地方大学の定義を検討
  - 大都市圏に位置しない（人口集積、住環境、就職先等）
  - 大学規模（予算、学生数、学部・研究科等）が小さい

### 3) 第1回海外調査準備

- 対象大学との調整
- 質問票の作成

### 4) 国内外の論文等レビュー

- 既往論文、これまでの「調査分析」の報告書、国際機関や研究機関等の調査報告書をレビュー

### 5) 事前調査分析結果の取纏め

- 書面に整理して、DropBoxで共有

## ステップ2: 第1回海外調査

### 1) 米国調査（東海岸）

- 訪問者：島根大学 香川
- 訪問期間：
  - a. 2024年1月5日～26日
  - b. 2024年3月6日～10日
- 訪問大学
  - a. バージニアコモンウェルス大学
  - b. ジョージア州立大学

### 2) 米国調査（西海岸）

- 訪問者：広島大学 渡邊
- 訪問期間：
  - 2024年2月11日～25日
- 訪問大学：アリゾナ州立大学、テキサス大学ダラス校

### 3) スウェーデン

- 訪問者：広島大学 石田・塩満  
島根大学 丸山
- 訪問期間：
  - 2024年2月2日～16日
- 訪問大学：リンシェーピン大学、チャルマース工科大学、ヨーテポリ大学、ルンド大学

## ステップ3: データ分析と情報共有

### 1) 海外調査収集データの整理・分析

- 対象大学においてインタビューを中心に収集したデータの整理・分析
- 情報共有フォーラムでの発表、次年度の海外調査へのフィードバック、提言書取り纏めへ向けての整理

### 2) 情報共有フォーラム（広島大学）

- 日時：2024年3月13日13:00～17:00
- 会場：広島コンベンションホール
- 参加者：約50名
- 基調講演（アリゾナ州立大学ゴーン教授、ボーズマン名誉教授）
- ディスカッションセッション「海外の取組に学ぶ」（視察報告と基調講演講師との質疑応答）

### 3) 情報共有フォーラム（島根大学）

- 日時：2024年3月19日14:30～17:00
- 会場：大学ホール、オンライン
- 参加者：約60名
- 第1部：視察報告
- 第2部：パネルディスカッション「地方大学における女性研究者支援の現状と課題」

# 4. 訪問国と訪問大学（令和6年度）

## ステップ4: 第2回海外調査

### 1) 韓国調査

- ・ 訪問者：広島大学 崔、島根大学 河野
- ・ 訪問期間：2024年6月14日～26日
- ・ 訪問大学：地方5大学（全北大学校、慶北大学校、釜慶大学、釜山大学（すべて国立）、朝鮮大学校（私立、オンライン調査））、ソウル市内5大学（ソウル大学、韓国建設技術研究院、国立山林科学院（以上、国立）、高麗大学校、慶熙大学校（以上、私立））

### 2) ドイツ調査

- ・ 訪問者・期間：広島大学 フンク（8月19日～9月19日）
- ・ 訪問大学：Karlsruhe Institut für Technologie、Freiburg大学、Baden-Württemberg州科学研究芸術省ダイバーシティ・ジェンダー平等担当、地理学の女性教員（6大学）
- ・ 訪問者・期間：島根大学 香川（2024年10月）
- ・ 訪問大学：

### 3) 米国調査

- ・ 訪問者・期間：広島大学 渡邊（9月29日～10月16日）
- ・ 訪問大学：ネブラスカ州ネブラスカ大学リンカーン校
- ・ 訪問者・期間：島根大学 香川（4月13日～17日）
- ・ 訪問大学：ペンシルベニア州Wyndham Philadelphia Historic District、ミシガン州ミシガン州立大学、オクラホマ州州立大学

## ステップ5: 調査結果取り纏め、提言書作成、フォーラム並びに総括シンポジウム開催

### 1) 海外調査結果取り纏め、提言書作成

- ・ 各担当ごとに海外調査結果取り纏め
- ・ 各国の優秀事例からの教訓の整理と提言案の作成
- ・ 両大学の女性研究者との意見交換
- ・ 日本での実施可能性・優先度を検討の上、提言書の作成

### 2) フォーラム（情報共有フォーラム）

- ・ 広島大学・島根大学の関連4事業の共同開催
- ・ 日時：2024年12月16日13:00～16:00
- ・ 会場：広島大学学士会館（ハイブリッド開催）
- ・ 参加者：約50名
- ・ 基調講演：筑波大学名誉教授 吉武博通
- ・ 4事業概要報告と各事業における評価についての報告、若手評価者から見た評価、全体討論

### 3) 総括シンポジウム（予定）

- ・ 日時：2024年3月4日13:00～16:30
- ・ 会場：広島大学ミライクリエ（ハイブリッド開催）
- ・ 参加者：約60名
- ・ 事業概要報告、各国調査報告、取組成果と女性研究ニーズ調査に関する報告、提言書概要説明
- ・ 「広島大学・島根大学への助言（仮）」アリゾナ州立大学 エウセビオ・スコルナバッカ教授
- ・ 来賓総評

# 5. 地方大学とは

- ・ 定義＝地理的に、首都圏・大都市圏以外の地域に位置する大学
- ・ 理工系女性研究者の増加を目指す際の地方大学に対するSWOT分析

## 強み (Strength)

- ・ 地域密着型(企業や自治体等)でインターンシップの機会等が提供できる
- ・ 地域の特色を生かした分野での研究を強みとして、興味のある女性研究者を惹きつけやすい
- ・ 教職員・学生間の関係が比較的密である
- ・ 安全で安心な生活環境がある
- ・ 地域の視点から日本全体の動向を俯瞰できる

## 弱み (Weakness)

- ・ 国際的な知名度が低く、影響力が弱い
- ・ 予算規模が小さく、研究資金に限られる
- ・ 中央政府や大企業・研究機関から地理的に遠い
- ・ 最新設備や研究インフラの整備が十分でない
- ・ ジェンダー平等への意識が希薄である可能性大
- ・ 国際会議・芸術文化等の施設やイベントが限定的
- ・ 首都圏での会議参加に時間とお金がかかる

## 機会 (Opportunities)

- ・ 政府や自治体による女性研究者支援策の活用
- ・ ICTやリモートワークの活用
- ・ 地域の課題(過疎化、高齢化、環境問題など)を解決する研究が注目される
- ・ 高校・中学校でのSTEM教育やロールモデル紹介による機運の活用

## 脅威 (Threats)

- ・ 若手研究者や優秀な学生が生活や研究環境の利便性を求めて地方から流出
- ・ 人口減少と少子化
- ・ 性別役割分担意識が強く、女性研究者が家庭責任との両立に苦勞する
- ・ 都市部の大学や企業、研究機関との厳しい競争

# 6. 海外で収集した評価に関連する情報

- ✓ EUジェンダー主流化原則(どのジェンダーも40%を下回らないよう)を各大学が尊重
- ✓ 男性に比べて、女性研究者は組織の中で社会化されにくい(例えば、権威との交流や非公式な飲食会参加機会が少ない)
- ✓ 女性が担う割合が多い仕事(学生のメンタルケア等)は評価対象外で、男性に有意な仕事(学部長、委員長等)は高く評価される傾向がある
- ✓ 女性がリーダーとなる社会文化が醸成されておらず、素質や能力について評価をしてくれる上司がいない
- ✓ マネジメントに男性が多く、役員や学部長がマニフェストもなく決定されていく文化がある
- ✓ 既存分野を保持しようとする傾向(オールド・ボーイ・ネットワーク)、個人的・組織的なえこひいき、有名な研究者や機関に高い評点をつけてしまうハロー効果などは依然として存在する
- ✓ 育児休業制度は昇進に不利益があるという懸念から十分に活用されていない
- ✓ 法的基盤整備や支援プログラム実施など政策面での努力を進めて、女性枠政策や暗黙的なクォーター制が女性教員割合の増加につながる
- ✓ 女性科学技術者団体の活動や、女性教員ネットワークが声をあげることで改革につながる
- ✓ 理工系の女性教員増加のために、高校生向けのキャリア体験プログラム等を実施中

# 7. 女性研究者の育成に資する評価の考察

- 1) **多面的評価**: 研究成果に加え、研究プロセスや教育・指導、社会貢献活動を評価し、研究者の強みを認識
  - ◆ **論文の質と影響**: 単純な論文数だけでなく、研究の影響や質を重視
  - ◆ **チームワークとコラボレーション**: 共同研究や他分野との連携を評価
  - ◆ **教育活動**: 指導学生や教育活動の成果を評価
  - ◆ **社会貢献**: 研究の実社会への影響やアウトリーチ活動を評価
- 2) **ライフステージに応じた柔軟な基準**: 育児や介護などのライフイベントを考慮した評価
  - ◆ キャリアの断絶期間や減速期間を考慮
  - ◆ 時間ではなく成果や潜在的な貢献を評価
- 3) **リーダーシップと潜在能力の評価**: 若手・女性研究者が将来的にリーダーとして活躍できる可能性重視
  - ◆ **創造性や革新性**に焦点を当てた評価
  - ◆ 研究計画や提案のユニークさや実行可能性を評価
- 4) **メンターシップの評価**: 研究指導者としての役割を評価し、若手研究者の研究意欲を高め、キャリア発展を促進する環境を構築
- 5) **公平な審査と評価プロセス**: 評価委員会に多様性を持たせ、バイアスを排除するための研修を実施、特命評価の導入など
- 6) **非伝統的な成果の評価**: 若手・女性研究者が関与しやすい活動(学際的研究、政策提言、地域貢献など)を評価対象に
- 7) **研究支援の提供**: 評価に直接関係しないが、研究意欲を高めるための研究支援制度を並行して強化

# 8. 提言書取纏めへ向けて

- 国別現地調査(大学対象)報告:対象大学概要とグッドプラクティス紹介
- 女性研究者個人へのインタビュー調査報告:係わってきた取組の概要、役割、成果、課題等
- 政策提言書(日本の大学、政府に対して)目次案

## 第1章 本申請事業の概要

## 第2章 海外の優れた取組からの学び:女性研究者支援政策、各国調査の概要と優れた取組

## 第3章 提言(仮)

提言1: ジェンダー平等主流化、女性研究者支援政策のアプローチ強化

提言2: 柔軟な公募方法と雇用体制(柔軟な働き方を提供)

提言3: 公正さを重視した人事制度、評価制度

提言4: 女性研究者のネットワークづくり支援、メンタリング制度

提言5: 地域特化の研究テーマによる地域課題解決に貢献できる研究者育成

提言6: 地方自治体・企業との協力(地域密着型の支援体制と女性研究者向け特化型プログラムやキャリアパスの開発など)

提言7: DXを活用して地方大学の魅力向上(ICTによる研究設備の整備)

提言8: 地方において根強い無意識の偏見への対応